



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 12 月 5 日 Vol. 21

これまで、活動開始日から概ね時系列順に自身の活動状況について記載させていただきましたが、ようやく本紙から 2024 年の出来事について紹介させていただきます。ただ、これを執筆しているのが 2024 年 12 月。年の暮れになって初めて年明けのことを書き始める更新頻度の高さ、ご容赦ください(ー)。しかしその分、自身の活動が日本の仕事場に追いついてきたほどせわしなかったです(ということをお願い致します)。それほど 2024 年もホントーーーーーに色々ございました。

今回は、2024 年になって変化した周囲の環境や自身のことについて記載させていただきます。

新校長の着任

これまでは HOD (教科主任。日本の副校長や教頭といった管理職に相当) の女性の先生が代理で担当されていましたが、正式に校長先生が着任されました。男性の先生です。トップが変われば組織も変わり、去年と比べて色々な事が変わりました。

新入生 Gr8 の入学と日本語クラスのメンバー増員



写真 1 : 新年最初の集会の様子

ナミビアは日本と異なり、12 月終業で 1 月が始業であるため、年明けの開校と共に新入生 (Gr8, 中学 2 年生に相当) が入学してきます。日本では 4 月にどこの学校も入学式をやると思いますが、ここはそういった新入生向けのセレモニーは一切なく、毎週月曜日の朝の集会と変わらない幕開けでした (写真 1)。

また、初めてこちらで新入生を迎えて驚いたことが、彼らのクラスが (仮) であるということです。授業は既にこの週から始まりますが、クラスはメンバーの入れ替えや授業担当の教員の調整等があり、最終決定をするのが 2 月の中頃です。そのため、プリントを配っていても一部の生徒がいなくなったり、途中から新しい生徒が来て最初から教えなければいけなかったりと、授業はやりづらさを感じました。生徒の名簿も当然できておらず、名前を覚えることも一苦労でした。

ただ、新入生は日本語に興味がある生徒が多く、お陰で放課後の日本語クラスのメンバーも 20 名弱まで増えました。特にリクルートの期間は通常のクラスだけでなく、箸の使い方練習会や日本食の試食会等イベントもやりました（写真2）。

さて、ここから最終的に何名がレギュラーメンバーとして残るのでしょうか？結論は既に知っていますが、この時はこのクラスでこんな思いがけない経験をする事になるとは微塵も思っていませんでした。日本語クラスの様子については、追ってご紹介します♪



写真2：日本語クラスの日本食試食会の様子

授業の持ちコマが増える&授業以外の仕事も

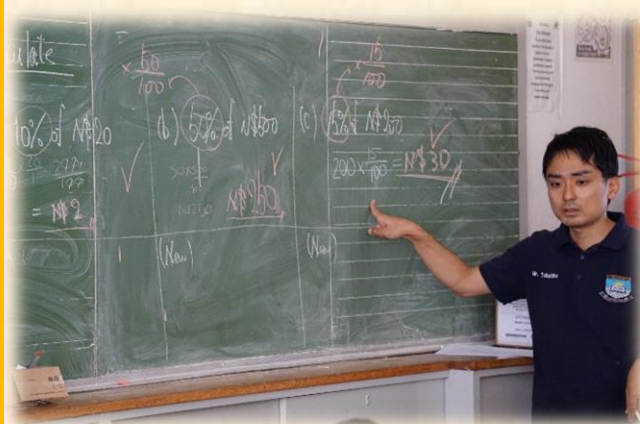


写真3：数学の一コマ

去年と比較して、授業の持ちコマが倍近く増えました。Gr8 と Gr9 の数学と IC（情報）の授業を担当することになりました（写真3）。真面目な生徒が多いクラスから、正直他の先生があまりもちたがらないヤンチャな生徒が多いクラスまで幅広くもちました。やはりですが、ヤンチャな生徒が多いクラスは本当に手を焼きましたね（笑）。そもそも数学以前に勉強自体に関心がない生徒が多かったため、落ち着きがなく、席に着かない、「筆記用具を探しに行く」と言って脱走する→鬼ご

っこが始まる、席についても騒ぐ、話を止めない等の生徒と格闘する日々がしばらく続き、彼らをどう勉強に向かわせようか苦心し、何度叱ったことか…。

ただ、この 12 月になって振り返ると、それでも彼らを人間的に嫌いになることはなかったですね。というのも、なんだかんだ言って純粋で可愛げがある生徒が多かったからです。彼らは思った時に思ったことをやらないと気が済まない性格なようで、だからこそ自身の欲のままに動きますが、一方で例えばどれだけ叱っても、翌日には『先生、ピースして。オチャラ〜（挨拶の一種）！』と何事もなかったかのように接してきたり、小テストでカンニングしたため「0点ね」と伝えた生徒が『先生、本当にごめんなさい。。次は絶対にしないから、再テストを受けさせてください。それと、どうしても数学が分からないので再テストの答えを教えてください。あと、お腹が空いたのでアメを買ってください。』と2つほど余計な注文がついていたり、できないなりにチャンスをものにしようとす、対話には応じてくれる等、根の部分で純粋さやあどけなさを感じる事が多く、見放したいとは思いませんでした。

また、彼らのお陰で英語力も多少向上しました。というのも、今までは自身の英語力に自信がなく、淡々と授業をこなすことばかりでしたが、彼らを授業に向かわせるための取り組みとして、ある時から日本の授業のように雑談を取り入れてみました。その結果、日本と同じようにその間は全員が集中するではありませんか。そして気付いた頃に授業に入ると、集中したまま終わることができます。ここは万国共通なんだなと思いました。そのため、雑談に必要な英単語や文法は自然と覚えていきましたね。また、改めて分かったことが、人と、特に生徒と話をしている時が一日の中で一番楽しいということです。教員という仕事とは相性がいいなということはこちらの国でも再確認できました。

そうは言っても、現在の日本の多くの教員は授業以外の仕事にひっ迫され、疲弊していることも事実です。自身も年が変わってからはそのような雑務が増え、日本の働き方に近づきました。教材のコピー、報告書・時間割・保護者宛レターや決算書の作成補助、Karibib 内の出先機関へ出張等本当に毎日のように何かしら任されました。多い時は授業中でもお構いなしに 20 分おきに電話が鳴り、あちらこちらで呼ばれます。特にこちらの方々は Excel の使い方が不慣れで、せっかくセルに数字を入れても電卓で計算してしまうため、Excel 内で関数を扱えるだけで重宝されます。ただ、このままでは彼らにとって非効率だと思い、簡単な関数を教えたり、難しいものはフォーマットを作って渡したりしましたが、翌日には全く同じ質問をしてきたり、フォーマットが壊されていたりすることもしばしばで、思うように業務の効率化ができていない状況です。それでも帰国まで辛抱強く続け、少しでもサポートできればと思います。

さらに、校長の意向で放課後に補習が始まりました。毎週月・火に 13:20～14:50 までの 90 分間です。また、保護者から個人的に補習を頼まれたこともあり、隣の私立学校の生徒数人と水曜日の放課後に数学の補習をしていました

(写真4)。加えて、木曜と金曜の放課後は日本語クラスを、土曜日は卒業試験がある Gr11 の試験範囲を早めに終わらせなければいけない関係で午前中に補習の補助をやっていました。これらの準備が大変で、帰宅後も日を跨ぐまで何かしらやっていた日が多かったですが、それでも生徒と話すと不思議とストレスが軽減されていきましたね。

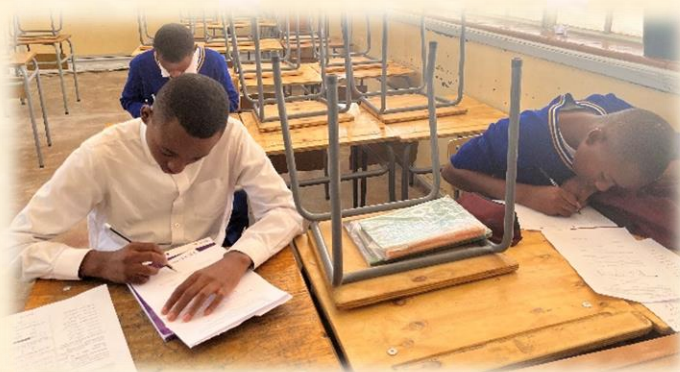


写真4：水曜日の補習の様子

Namibia、特に Karibib がホームに

これまで [Vol.16](#)～[Vol.20](#) に渡り、ナミビア以外のアフリカの国を紹介させていただきましたが、自身が小心者なこともあり、初めて行く地は多少なりとも緊張感がありました。ただ、帰国してホセア・クタコ国際空港に降り立つと、なぜか底知れぬ安心感が湧いてきました。1年半前に初めて赴任した時は、Karibib のような小さな町でさえ何をするにも緊張感がありました。しかし今では、会うと“Hi, Sir (先生、こんにちは)”とか“Mr.TAKA”と呼んでくれる顔なじみが増え、新たに知った店、気軽に車に乗せてくれる人、困った時に頼れる人も増え、Karibib に帰るとますますの安心感が湧いてきます。最初はどうなることかと思いましたが、「住めば都」とはよく言ったものですね。

ただそんな中、今でも慣れないものが天敵と言っても過言ではないゴキブリです。夏のシーズンになると毎日2, 3匹は見ます。この前なんか、気付いたら図々しくベットの上まで上がり込んできたため、気が動転しすぎて「お前は何をしとるん？家賃を払ったのか？帰れ。」となぜか家賃を引き合いに出し、殺虫剤ではなく、対話により和平的解決を図ろうという荒業を試みていました。話せば通じると思ったのでしょうか。ただ、こうも毎日見ていると、帰国間際には彼らと交信できるようになっている気がします。

そんな自身の 2024 年の目標は、

KARIBIB の返そう に恩を

です。2023 年は「観察」と「人間関係構築」に注力し、業務上の気付きがあっても、あまりこちらからは口出しをしないようにしていました。ただ、今年からはこれまでに築いた土台をフルに活用してなるべくこちらからアクションを起こし、帰国後も彼らのためになる何かしら還元できたらと考えています。今年も（もう暮れですが）不定期にその様子を更新いたしますため、お時間ある時にご覧いただけましたら幸いです😊

次回：IC（情報）の授業の一部をご紹介します！